

## 投稿される方へ

2019年10月17日改訂

「比較生理生化学」は、日本比較生理生化学会の会誌です。発行は年3回〔1号（4月）、2号（8月）および3号（12月）〕で、内容は巻頭言、総説、技術ノート、新風、研究グループ、海外だより、学術集会から、談話室、ニュース、その他（若手の会コーナー、書評など）で構成されます。会員に無料で配布されるほか、希望に応じて頒価で販売されます。

### I. 投稿にあたって

#### 1. 投稿方法

「II. 執筆要領」に従って作成した原稿を、E-mail で編集委員長 (edit@jscp.org) へ提出してください。E-mailでの提出が難しい場合は、編集委員長にご相談ください。

#### 2. 投稿期限

原則として、総説、技術ノートおよび新風は発行日の2ヵ月前、それ以外は1ヵ月半前です。詳細は、編集委員長へお問い合わせください。

#### 3. 投稿時の確認事項

(1) 著者全員の所属と連絡先 (E-mail アドレス) をお知らせください。編集委員会からの連絡に利用します。

(2) 総説、技術ノートと新風については、(1)に加えて、

① 査読を希望される研究者3名の氏名、所属と連絡先 (E-mail アドレス) をお知らせください（「4. 掲載の可否」参照）。ただし、希望の査読者に依頼しない可能性もお含み置ください。

② 本文中の図や写真は、特に希望がない限り、モノクロ（白黒）印刷とします。カラー印刷をご希望の場合、その旨をお知らせください。カラー印刷に要する費用は、原則として著者負担になります。ただし、編集委員長の判断で、1ページを限度として無料でカラー印刷を認める場合があります。

③ 総説、技術ノートおよび新風の著者には、記事のPDF ファイル、雑誌1部および紙媒体の別刷り100部を無料で差し上げます。紙媒体の別刷りを100部以上ご希望の場合は、その旨をお知らせください。追加分は有料です。

#### 4. 掲載の可否

編集委員長を中心とした編集委員会で最終決定します。総説、技術ノートおよび新風は、ピアレビューを実施した上で、改稿の必要性や掲載の可否を決定します。結果は、E-mail でお知らせします。

#### 5. 非会員著者特典

総説、技術ノート、新風および若手の会コーナーの非会員著者には、入会金・掲載年の年会費が無料で会員になれる特典が与えられます。

#### 6. 著者校正

全ての記事について、1回のみ行います。

#### 7. 著作権

掲載記事の著作権は、日本比較生理生化学会に帰属します。ただし、自身の著作の一部（図表等）を使用する場合は、出典を明示した上で、本学会に断りなく自由に使用できます。また、自身の総説および技術ノートの電子版を、著者個人のウェブサイトや所属機関のリポジトリ等で公開する場合は、著作権の帰属を明記した上で自由に使用できます。

#### 8. オープンアクセス

総説、技術ノートおよび新風は、(独) 科学技術振興機構 (JST) が運営するJ-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/hikakuseiriseika/-char/ja>) で公開します。

### II. 執筆要領

1. 原稿はすべて、電子ファイルで作成してください。

2. 本誌の刷り上がりは、1頁あたり26字×56行×2段=2912字です。

3. 句読点は、和文には『(コンマ)』と『(マル)』を、英文には半角で『(,コンマ)』と『(.ピリオド)』を使用してください。

4. 各記事の執筆要領は、下記の通りとします。

#### (1) 巻頭言

刷り上がり1ページに収まるよう、本文の長さは2300字以内を目安とする。原稿の末尾に、印刷時に脚注で示される著者名の英語表記（名・姓の順で姓はすべて大文字）、所属、郵便番号と住所を記入する。

#### (2) 表紙絵

本誌の表紙にカラーの写真や模式図などを掲載する。選択は編集委員長が行う。表紙絵の解説は、1000字以内を目安とする。

#### (3) 総説、技術ノート

① 原稿の長さは、図表を含めて、刷り上がりで7頁程度とする。

- ② 最初の頁に、標題、著者名と要旨(500字程度)を書く。要旨の下に、印刷時に脚注で示される著者名の英語表記(名・姓の順で姓はすべて大文字)、所属、郵便番号と住所を記入する。
- ③ 最後の頁に、英語の標題、著者名、所属、Abstract(200語程度)とキーワード(7個以内)をつける。
- ④ 本文に節を設ける場合、『1.』、『2.』、『3.』、……をつけて節を示す。節の見出しは簡潔にし、書き出しとの間にスペースを1行あける。
- ⑤ 文字は常用漢字と新仮名遣いとする。
- ⑥ 術語、物質名などは、できる限り日本語で表し、必要に応じてその原語を( )で示す。ただし、略号については、そのまま用いる。
- 【例】キネシス(kinesis), GABA
- ⑦ 生物名は、片仮名書きの和名で表し、必要に応じて初出時に学名を( )で示す。学名は斜体で表記する。
- 【例】キイロショウジョウバエ(*Drosophila melanogaster*)
- ⑧ 人名は、姓の原綴りで示す。
- 【例】岩田は, HodgkinとHuxleyは,
- ⑨ 単位記号、化学記号および数学記号は立体、量記号は斜体とする。
- 【例】*h* cm, A, *x* g, H<sub>2</sub>O, sin *x*
- ⑩ 数字は、原則としてアラビア数字を用いる。ただし、漢字と結合して名称を表すものは、漢字とする。
- 【例】1つ, 2~3時間, 50個, 数十個, 一例
- ⑪ 参考文献の数は、50編以内が望ましい。
- ⑫ 本文中で引用した文献はすべて、アルファベット順に通し番号をつけ、文末に「文献」としてまとめて掲げる。本文中での引用箇所には、通し番号を右肩につけて示す。
- 【例】岩田によると<sup>1-4)</sup> ……である<sup>5, 8, 9)</sup>。
- ⑬ 文末の「文献」の記載は、次のようにする。
- ・雑誌 通し番号) 著者名: 誌名, 巻数, ページ(発行年)
  - ・書籍 通し番号) 著者名: 書名, ページ, 発行所(発行年)
- 1) Iwata, K., Morita, H. & Takahashi, K.: Comp. Physiol. Biochem., 110, 125-138 (1992)
  - 2) 岩田清二, 森田弘道, 高橋景一: 現代比較生理生化学の課題, pp.10-25, 城北出版社(1993)
  - 3) Schmidt-Nielsen, K., Dawson, T.J., & Crawford, E.C.Jr.: J. Cell Physiol., 67, 63-71 (1966)
- ⑭ 図と表の数は、合わせて10以内とする。
- ⑮ 図は、本文と別ファイルで作成する。図1枚の刷り上がりの大きさは、横7.8cm × 縦24.5cm 以内か、横16.5cm × 縦24.5cm 以内となるようにする。手書きの場合は、刷り上がりの大きさの1.5~2倍の大きさで描く。すべての図に簡潔な標題と必要な説明をつけ、本文原稿の末尾に「図の説明」としてまとめて書く。
- ⑯ 表も、本文と別ファイルで作成する。1行は26字以内または52字以内とする。すべての表に簡潔な標題と必要な説明をつけ、表中に示す
- ⑰ 図および表の表示は、図1, 図2, ……、表1, 表2, ……の通し番号で行う。挿入箇所に希望がある場合は、おおよその箇所を明示する。
- ⑱ 図および表を文献から引用した場合は、引用を明記する。引用の許可が必要な場合は、著者の責任で許可をとる。転載許可の責任は著者にあるものとする。
- (4) 新風  
新発見や既存の説を支持しない実験結果に基づき新説を提示するなどの新規性の高い萌芽的な研究内容をまとめたもの。「(3) 総説, 技術ノート」の執筆要領に準じる。
- (5) 海外だより  
留学などで滞在した研究室、訪問した研究施設、あるいは海外調査や見聞の紹介記事。研究室や調査の様子等がよくわかる写真を添付することが望ましい。原稿の長さは、写真を含めて、刷り上がりで2~4頁程度とする。原稿の末尾に、写真の標題と必要な説明を書く。
- (6) 学術集会から  
国内外の学術集会の紹介記事。集会の様子などがよくわかる写真を添付することが望ましい。原稿の長さは、写真を含めて、刷り上がりで1~2頁程度とする。原稿の末尾に、写真の標題と必要な説明を書く。
- (7) 研究グループ  
研究室や研究グループの紹介記事。執筆者を含む顔写真、または研究現場のスナップ等の写真を少なくとも1枚添付する。原稿の長さなど、その他は「(6) 学術集会から」に準じる。
- (8) 談話室  
テーマを限らず、会員の自由な意見を掲載する欄。原稿の長さなど、その他は「(6) 学術集会から」に準じる。
- (9) ニュース  
日本比較生理生化学会の会記のほか、関連のある学術集会の案内などの投稿記事。
- (10) その他  
上記のいずれに入らない記事でも、随時掲載する。